

【2023年度事業概略】

- ① 「創造性豊かな世界市民の育成」を指向し、各種施策を検討、実施した。
スーパーグローバルハイスクールなどを通して得た経験を活かしグローバルリーダーを育成。
- ② 学事面では小中高（12年間一貫）を教育の柱とし、生徒・児童の発達段階に応じた、きめ細やかな教育（育み）を根幹に、創価大学、アメリカ創価大学との連携も強化し、創価教育の更なる充実に取り組む。また文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」に対応すべく、全生徒・児童一人一台の情報端末を配備。加えてネットワーク環境の充実に努めた。
- ③ 全額給付型の奨学金制度を継続し、経済面でのサポートを実施。
(1) 家計急変世帯に対する奨学金制度を継続。
(2) 寮生・下宿生全員に昼食支援を実施等、安心できる学園生活を提供。
- ④ 安全安心対策の視点から施設設備の点検・補改修を行い、生徒・児童・園児が安心して学園生活を送れるよう整備を行った。
- ⑤ 学園全体の中長期教育ビジョン策定を推進。
「創造性豊かな世界市民の育成」実現のため、更なる教育力の向上と世界市民の育成を目指し、中長期的な経営ビジョン・教育戦略の立案・策定を教育コンサルを活用し、推進。
- ⑥ 東京キャンパスにおける「校舎・グラウンド総合整備基本計画」の策定を目指し、コンストラクションマネジメント（CM）業務を専門業者に委託し検討を推進。2023年度は、基本計画を策定。創立60周年へ、関西キャンパスにおいては校舎等の補改修工事を計画的に実施。

以下、主な事業について報告する。

1. 諸施設の整備・改修工事等について

- | | | |
|--|----|--------------|
| ① 創価学園 中長期教育ビジョン策定 | 総額 | 14,520,000円 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 2030年「創価教育100周年」を目指し、創価学園ミッション「創造性豊かな世界市民の育成」実現のため、さらなる教育力の向上を目指した中長期的な視点で、教育ビジョン・経営戦略を立案。 | | |
| ② 東西創価中学高校 新入生情報端末購入並びに支給 | 総額 | 48,384,000円 |
| 2023年度より中学高校新入生に対し、情報端末(Chromebook)をICT奨学金として現物支給するため東西の新中学1年生、新高校1年生分のChromebookを購入。 | | |
| ③ 東西創価高校 スタディサプリ契約更新 | 総額 | 12,689,600円 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 1人1台のタブレット環境の活用方法として、2017年4月に関西創価高校に導入。創価高校においてもスタディサプリを導入し、生徒1人ひとりに対しての学びのサポートを強化。 | | |
| ④ 東京学園 総合整備計画 基本設計策定 | 総額 | 406,175,000円 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 東京学園総合整備計画について、2023年1月より基本構想をもとに基本設計策定業務、コンストラクションマネジメント業務を業者に委託し基本設計を策定。東京創価小学校の新校舎建設を発表した。 | | |
|  | | |
|  | | |
| ⑤ 東京学園 施設設備保守営繕管理業務委託 | 総額 | 107,753,800円 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 2016年度より、施設設備の法定点検や諸届、維持管理に関わる施設設備保守営繕管理業務を業者に委託。2023年度から清掃業務と造園・植栽管理業務の管理も委託し、業務の効率化やチェック機能の強化のため委託契約を更新。 | | |
| ⑥ 創価中学高校 特別教室プロジェクター更新 | 総額 | 11,210,100円 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 2016年度導入より7年経過し、経年劣化のためプロジェクターの更新を実施。 | | |

- ⑦ 創価高校 東大和グラウンド建物外壁・屋上防水他改修工事 総額 121,910,000円
- ・硬式野球部が合宿所として使用している誓球寮および屋内練習場について、複数箇所のタイル剥離が散見された。また屋内練習場の屋上から漏水が発生していたため各種改修工事を実施。
- ⑧ 創価中学校 普通校舎給排水配管更新工事 総額 18,634,000円
- ・1983年竣工以来、配管等の更新はせず使用していたが、近年、配管に尿石などが固着し、排水異常など、詰まりが多くなってきたため更新工事を実施。
- ⑨ 関西創価中学高校 第4グラウンド(現賃借地)購入 総額 74,788,832円
- ・賃借地である第4グラウンドを諸活動のニーズに合ったグラウンド整備を行うため土地を購入。
- ⑩ 関西創価中学高校 テニスコート(現賃借地)購入 総額 54,395,450円
- ・賃借地であるテニスコートを引き続きテニスコートとして使用し、周辺土地と合わせて整備を行う計画のため土地を購入。
- ⑪ 関西創価中学高校 教職員駐車場(現賃借地)購入 総額 28,109,664円
- ・東側に隣接する学校所有地は道路に面しておらず、周囲が全て賃借地であり、今後の有効利用のために教職員駐車場として賃借している土地を購入。
- ⑫ 関西創価中学高校 第4グラウンド隣接土地購入 総額 22,364,831円
- ・全天候型のグラウンドとしての活用をメインに、安全対策を講じながら金星寮から校内への通路としても利用できる可能性があるため、第4グラウンド隣接土地を購入。
- ⑬ 関西創価中学高校 隣接住宅購入 総額 14,642,399円
- ・安全対策として、今後通用門の設置(現在、学校敷地の接道箇所は正門のみ)を計画するため、隣接住宅を購入。
- ⑭ 関西創価高校 食堂厨房食洗機取替工事 総額 12,650,000円
- ・2006年度設置より16年以上が経過しており、故障が多いため取替工事を実施。

2. 教育事業・一貫教育連携の充実について

① 創立精神深化を育む各種施策の推進

- ・「創立者とともに」（創立者指導学習資料2023年版）を制作し、学園生の創立精神深化に努めた。
- ・学園三大行事（英知・栄光・情熱の日記念行事）への取り組みについて、行事を開催するねらいを明確にし、工夫して実施。
- ・2023年WBC日本代表監督で、東京高卒業生の栗山英樹氏を講師として、グローバル・セミナーを開催した。



② 小中高の12年間一貫教育を生かした教育の充実

- ・キャリア教育や個別の進路指導により、創価大学、創価女子短期大学をはじめ、国公私立大学、海外の大学に優秀な人材を輩出。
- ・小学校から中学校、中学校から高校への進学をスムーズに接続させるブリッジプログラムの充実を図った。
- ・第34回創価芸術展を、創価大学（本展）、兵庫県、宮崎県、神奈川県にて開催。合わせてオンライン展も実施した。

③ 創価大学・SUA（アメリカ創価大学）・海外創価学園との連携のもと、創価教育を推進

- ・創価大学、創価女子短期大学との連携プログラムの充実を図り、推進した。
- ・「Project SCOPE」の活動として、ブラジル創価学園とのオンライン交流会を実施。
- ・創価大学の単位が高校で履修できる「データサイエンス入門」の講座を東西高で開講。

④ 生命尊厳の理念のもと自然環境教育・平和教育を推進

- ・東西高が国内外でのフィールドワークを通して平和教育を推進。
- ・関西学園でNASA・宇宙教育プログラムへの参加による自然環境教育の推進。
- ・自然保護育成の各種保存会・委員会の活動に継続して取り組む。

⑤ 幼稚園から小中高全校で、読書教育の一層の推進

⑥ 教職員・管理栄養士等が協力して食育の取り組みを推進

⑦ 友情を育む、クラブの取り組みを推進

- ・東京中高・創価雄弁会、関西高・ディベート部、関西高・箏曲部、東京高・関西中高・ダンス部、関西高・吹奏楽部、関西小・アンジェリック・ブラスバンド、関西高・囲碁部等が全国大会に出場。



⑧ 世界市民育成の取り組み

- ・ フィールドワーク（オンラインシステムも活用）を通して国内外にて研修を実施。
- ・ 東京高はG C I S（世界市民探究）を通して、S G D sにつながる地球規模課題の解決に向けた探究活動に取り組んだ。
- ・ 関西高は全員で取り組むG R I T（探究型総合学習プログラム）のカリキュラムの充実を図った。



⑨ 防災・安全・安心の教育環境を充実

- ・ 通学時の安全のための、「安全教育」「マナー講座」を実施。
- ・ 防災訓練を定期的に行い、避難経路の確認や安全点検を充実。
- ・ スマートフォンやSNS利用の際のマナーについて学習し、意識を高めた。
- ・ 緊急対応等のセーフティネットを強化。

⑩ 札幌創価幼稚園 きめ細やかな園児対応

- ・ 「遊び中心の保育」を推進し、「心の根っこを育む」との教育目標から、「自己肯定感を育む保育」を目指し、一人ひとりを大切にする幼児教育に注力した。



3. 国際交流について

① 海外からの表彰

- ・ 卒業式において、卒業生代表に、インド・マカオ・中国より表彰を頂戴した。

② 国際交流

- ・ 東西の中学生が、アメリカ創価大学で、ブラジル創価学園生とともに研修。
- ・ 東京の高校生が、中国の南開中学とのオンライン交流会を行った。
- ・ 東西の高校生が、マレーシア語学研修で、創価インターナショナルマレーシアと交流。
- ・ 海外の大学等から多くの来校者を迎え、交流を深めた。
- ・ 札幌幼稚園の教職員がマレーシア幼稚園との交流を実施。

4. 生徒・児童・園児支援について

① 奨学金の充実

- ・ 池田育英奨学制度・牧口奨学制度をはじめ、各種奨学制度を実施し、安心して学べる環境づくりに取り組んだ。

② 寮生・下宿生への支援充実

- ・ 地方から来ている寮生・下宿生の保護者の経済的負担を軽減するため、寮生・下宿生全員の昼食支援制度を継続。

<支給実績>

池田育英奨学制度	28,800,000円
鳳雛入学時奨学制度	7,200,000円
寮生・下宿生奨学制度	84,669,332円
牧口記念教育基金会奨学制度	55,800,000円
希望奨学金	12,977,865円
ICT奨学金	43,910,000円
きょうだい同時在籍者奨学制度	15,100,000円
合計	248,457,197円

<原資内訳>

第3号基本金引当特定資産 利息	74,752,758円
就学支援基金引当特定資産 利息	113,942,594円
卒業生 寄付	19,761,845円
牧口記念教育基金会 寄付	40,000,000円
合計	248,457,197円

<奨学制度実績>

- ・ 池田育英奨学制度

対 象：創立精神を堅持し、人物成績優秀もしくは諸活動での貢献顕著な者
 人 数：高校生 東西合計72名
 支給額：40万円支給
 資 金：第3号基本金引当特定資産利息
 支給実績：28,800,000円
- ・ 鳳雛入学時奨学制度

対 象：人物成績優秀者
 人 数：高校生 東西合計21名
 支給額：東京高 36万円／関西高 33万円
 資 金：卒業生寄付・就学支援基金引当特定資産利息
 支給実績：7,200,000円
- ・ 牧口記念教育基金会奨学制度

対 象：奨学金を望む者（小学生：年収400万円以下めやす）
 （中学生：年収590万円以下めやす）
 人 数：小学生・中学生 東西合計311名
 【東京】109名（35%）※全体比
 【関西】202名（65%）※全体比
 支給額：小学生 10万円／中学生 20万円
 資 金：牧口記念教育基金会寄付・就学支援基金引当特定資産利息
 支給実績：55,800,000円
- ・ 寮生・下宿生奨学制度

対 象：寮生・下宿生（中学・高校生）
 人 数：イ）寮生・下宿生全員
 ロ）寮生・下宿生で収入基準を満たし奨学金を望む物（年収590万円以下目安）
 （人数は2024年3月現在）
 【東京】56名（高校：49名 中学：7名）
 【関西】103名（高校：95名 中学：8名）
 支給額：イ）中学給食代金・高校昼食代・食券を支給
 ロ）寄宿舎費全額免除
 資 金：第3号基本金引当特定資産利息・ 就学支援基金引当特定資産利息
 支給実績：84,669,332円

- ・ きょうだい同時在籍者奨学制度
 - 対 象：受験合格者のうち創価学園（幼稚園除く）に入学する者の兄弟姉妹が、入学年度に創価学園（幼稚園除く）に在籍している場合で、奨学金を望む者
 - 人 数：小学生・中学生・高校生 東西合計151名
【東京】79名 【関西】72名
 - 支給額：10万円支給
 - 資 金：第3号基本金引当特定資産利息
 - 支給実績：15,100,000円
- ・ 希望奨学制度
 - 対 象：家計中心者の死亡・リストラ・廃業・疾病により失職（自己都合を除く）した場合
 - 人 数：東西合計41名
【東京】6名 【関西】35名
 - 支給額：①学費全額免除（死亡の場合は学園が設置する高校まで。他は最長12ヵ月）
②通学生 食事代、交通費（寄宿舍費相当額上限）
③寮・下宿生 寮費、下宿代支給
 - 資 金：第3号基本金引当特定資産利息
 - 支給実績：12,977,865円

5. 生徒・児童・園児募集について

① オープンキャンパス・学校説明会・入試説明会の開催

- ・ 東西学園でのオープンキャンパス開催をはじめ、各地域で開催された学校説明会等に教職員を派遣し、小中学生・未就学児への激励と保護者への説明を実施。

6. 広報・地域貢献活動について

① 学園メイト加入を推進

- ・ 全国の小中学生及び受験希望支援者を対象に、「学園メイト」制度（登録無料）を2009年度より開始。登録者数は1,500名を超え、広報活動の大切な基盤となっている。
学園レター（年3回）、学園グッズを学園メイト登録者全員に贈呈。

② 駅広告看板の設置

- ・ 東西、札幌の学園最寄り駅をはじめとする、近隣主要駅広告を通し、広報活動を推進。

③ 創価芸術展の開催

- ・ 生徒・児童・園児が日頃の授業、クラブ活動で作成した絵画、書道、写真、陶芸等を展示。作品を通じて地域・社会に本学園が取り組んでいる人間教育への深い理解と関心を広げている。
- ・ 2023年度は、創価大学での本展と関西展(兵庫)、九州展(宮崎)、東海道展(神奈川)を開催。

会場	鑑賞者数
本展	5,966名
関西展	1,259名
九州展	1,033名
東海道展	1,009名
合計	9,267名

- ・ 本展・巡回展とともにオンライン展も開催
総鑑賞者総数：85,300名（参考）2022年度：34,614名 2021年度：18,091名
主な海外閲覧地域：中国、アメリカ、オーストラリア、カナダ、韓国など



7. 創価教育センターの活動について

① 学事面における創価一貫教育を推進

- ・ 学事推進会議を開催し、各校・園の学事推進を図った。
- ・ 教育内容の更なる正則化と向上を図るため学事便覧を改訂した。
- ・ 創価大学との定例会議を開催し、連携プログラムや各種情報の共有や調整を行い、諸行事がスムーズに実施できるようにした。

② グローバルリーダー輩出の取り組みを推進

- ・ 東西高を繋ぎセンターが連携基点となつての世界市民育成連絡会を実施。
- ・ 「Project SCOPE」の活動として、ブラジル創価学園との交流を推進。

③ 教職員の育成と研修を推進

- ・ 校長会・事務長会で教育情報を提供した。
- ・ 副校長教頭会を開催し、研修として充実させた。
- ・ 若手教職員の研修を充実させた。(内定者、新任、勤続2年、勤続5年、勤続10年)
- ・ ミドル研修を開催し、教員の資質向上を図った。
- ・ 全教職員対象に、テレビ会議を活用して、研修会を開催。
- ・ 全教職員が受講できるオンライン研修を導入した。

④ 創価教育研究所・自然環境教育研究所の活動

- ・ 両研究所ともに、研究員(代表教員)による会議と研修会を開催し、諸研究活動の充実を図った。
- ・ 毎年、全教職員による教育現場での取り組みをまとめ、未来に残す「創価教育の実践」記録集を作成。
- ・ 創価教育研究所では、創価の教育革命は自分の授業革命からとして、創立精神を学び深め、創価教育の実践に取り組んだ。
- ・ 創価教育研究所の記録をポータルサイトにアップして学園内に公表。
- ・ 自然環境教育研究所では、創立者の提言から自然環境教育についての学びを深め、教育実践の充実を図った。
- ・ 「自然環境教育研究所報告」を2回発行。

⑤ 多様性を認める教育の推進

- ・ ユニバーサルデザイン教育を推進した。
- ・ 創価学園として保護者相談室を設置し、保護者の負担軽減を図った。(フリーダイヤル対応)

⑥ 学園50年間の各種資料の収集と整理を推進

- ・ 創立者指導の整理を推進した。

8. アーカイブ充実

① 創立者関連資料の保全

- ・ 学園内にある、創立者の著書、著作、映像、音声等を厳重に管理(収集及び保全、修復)し、デジタル化することにより半永久的な継承体制を整備している。

② 関連資料の活用

- ・ アーカイブ資料を活用し、学園生に還元できるシステム(検索・閲覧)構築を目指し、検討を進めている。
- ・ アーカイブ資料の修復保全及び保管処理を着実に推進した。